

5つの次世代リーディング産業

いま、生産と消費のエリアが世界規模で変わってきています。その中で日本全体が生き残っていかなきゃならない。それには、世界一と言っている日本のものづくりの技術を活かす必要があります。中部圏がもつ高い産業集積を活かし、ソフトとハードを組み合わせ、新しい価値を生み出していくことが大切です。

自動車や工作機械などの企業を中心に、グローバルに事業展開しています。今後、日本の企業の競争力を高めるためには、海外事業によって得られた収益を国内に還流させるとともに、新しい産業を育てていく必要があります。中経連は、今後育てていくべき新しい産業として5つ挙げています。次世代自動車、航空宇宙、ヘルスケア、環境・リサイクル、観光です。

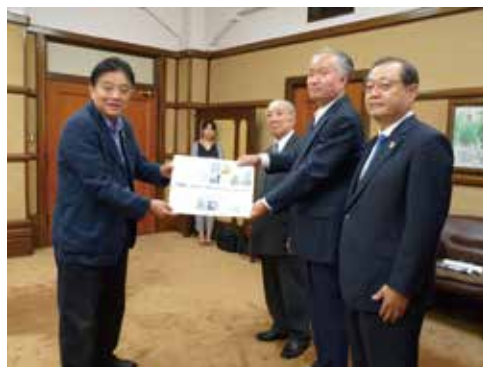
こうした産業の育成・振興により国内の雇用や働く人の収入が安定すれば、国内消費が増え市場も安定し、そこを存立基盤に活動する企業も育つ。そうやって国内産業が空洞化しないようにしていくことが必要だと思います。

100年後の名古屋を見据えた グランドビジョンが必要

この地域のまちづくりは、ものづくりと不可分です。ものづくりが元気になることでまちの活性化にもつながっていく。そのためにはインフラ整備が重要です。道路整備は着々と進んでいます。空の玄関・セントレアには2本目滑走路が必要で、これは中部圏の夢ですね。港湾は耐震岸壁が急務です。港湾だけでなく、いずれも防災対策は欠かせません。

2027年のリニア新幹線開業は、この地域にとって大きな活力となる可能性があります。一方、東京への人の流れを増幅させるストロー現象が懸念されます。そうならないためには、世界をリードする広域経済圏の拠点「グレーター名古屋」としてのグランドデザインをしっかりと描き、東京とも大阪とも違う

「グレーター名古屋」として 世界に誇れる 魅力的なまちづくりを



名古屋役所を訪れ、河村市長に提言書を手渡す

魅力あるまちづくりをしなきゃいけない。これは重要な課題ですね。

先般、「『(仮称)ナゴヤ・グランドビジョン』策定の提言」という提言書を名古屋市長に提出しました。提言のコンセプトは、リニア開業や南海トラフ巨大地震の発生などを見据え、100年後の名古屋をしっかりと考えたいという都市計画をつくり、東京に負けないまちづくりが必要というものです。もう時間は、そんなにありません。

グローバルな視点を持つ 国際人を育てていきたい

ものづくりやまちづくりを担う、人づくりも大切です。私はまず常識的な国際人であるべきだと思います。企業経営でもそうですが、日本を、あるいはこの地域をグローバルな視点で見ながら取り組まないと、世界経済の中で生き残れません。そのためには海外の人と信じあい、理解し合うことのできる国際人を育てていく必要があります。

中経連では「NEXT30産学フォーラム」という取り組みも行っています。これは次の30年を担う産学の若手を中心に異業種・異分野の交流を行い、将来もっと連携できる人脈や発想を育てることが目的です。これからも、こういう地道な努力を続けたいと考えています。

中経連は、ものづくり、地域・まちづくり、人づくりを柱に、会員や地域の皆さまとともに精力的に活動を展開し、「中部の明るい未来」を実現していきたいと考えています。



中部経済連合会
会長

三田敏雄さん

みた としお / 1946年、愛知県名古屋市の生まれ。成蹊大学工学部を卒業し中部電力へ入社。火力畑を歩み2006年に同社社長、2010年に会長就任。2011年、中部経済連合会の会長に就任。

